ふくろう通信

第３８号
2015年　７月　１日
自然博物園 ねいの里

鳥獣保護センターは大忙し

野生鳥獣共生管理員　松崎　勇

春から夏にかけて、多くの野鳥が子育をします。そして、鳥獣保護センターにはヒナや卵がたくさん持ち込まれてきます。ヒナには頻繁に餌を与えなければいけないので、担当の職員は大忙しとなります。持ち込まれるヒナは、ツバメ、スズメ、セキレイなど人家の近くに巣を作る野鳥で、巣から落ちたり、巣立ったばかりでうまく飛べなくて地面にうずくまっていたりして拾われてくるものです。また、卵は、キジやカルガモが多く、草刈りをしていて親鳥を傷つけてしまったり、驚いて巣を放棄してしまったものです。

（セキレイ）

（モズ）

（ツバメの兄弟）

鳥獣保護センターでは、これらのヒナや卵を育てて自然の中へ戻しています。しかし、生きていくのに大事なこと（餌の取り方や天敵からの身の守り方など）を親から学ぶことができません。また、人に慣れてしまうので、自然の中で生きていくのは大変厳しくなります。

卵から孵化したカルガモ（左）とキジ（右）

（放鳥を待つツバメ）

そのためヒナを見つけた場合、まず親に返すことを考えなくてはいけません。かわいそうだと思って拾ってくるのは、そのヒナにとって決して幸せなことではないのです。また、そのようなヒナを餌としている鳥や動物がいることも忘れてはなりません。大きな自然のサイクルの一コマなのです。

しかし、現実には親がいなくなったり、巣に戻せない場合もたくさんあります。また、「命を大切に」という人の心も大事にしなければいけません（特に子供の場合）。そんな時、鳥獣保護センターが人と自然を取り持つ手助けになればと思うのです。

４月から見浦沙耶子さんが鳥獣保護センターの職員として勤務されています。よろしくお願いします。

「新緑の里山ハイキング」

平成 27 年 4 月 26 日（日）

富山県自然解説員　加納 恵美子

雲ひとつない晴天！絶好の里山観察日和です。
参加者は 21 名。去年、ナチュラリストに認定されたばかりのピカピカのナチュラリストが、多数参加しました。
歩き始めてすぐ、ダンコウバイがある辺り。カンアオイの葉の裏に、ギフチョウの卵を発見！！！　直径約 1 ミリ。真珠のような輝きを持つ緑色の小さな卵が並んでいます。あちこちで「きれい！」と声が上がり、撮影会が始まりました。
卵から孵った幼虫はカンアオイの葉を食べ、夏が来る前にサナギになり、越冬し成虫となります。成虫はカタクリやショウジョウバカマの花蜜を好み、ギフチョウのメスはカンアオイの葉の裏に卵を産み付けます。
ねいの里には、カンアオイやカタクリ、ショウジョウバカマなど、ギフチョウが好む植物が多く、生育環境が整っています。ギフチョウは、人の手で整備された林床条件の良い里山に多く生息すると言われていますが、その一方で、富山県のレッドデーターブックでは希少種に指定されています。里山放棄による下草の繁茂や開発により里山が減少したことが原因と言われていますが、私たちの生活が便利になり豊かになることが“春の女神”とも呼ばれる美しいギフチョウの生育環境を減らすことに繋がると思うと、とても残念です。
今回の観察会では、たくさんの花が見られました。船の碇（いかり）の形のような花を咲かせるトキワイカリソウの群生、道端で元気よく黄色い花を咲かせていたのはウマノアシガタ。白い花が終わると甘酸っぱい黄色の実をつけるモミジイチゴ。タヌキのしっぽのようなフワフワの花穂を付けるタヌキランは、湿り気のある場所を好むようです。
どの花もそれぞれに個性があり、私たちの目を楽しませてくれました。

（ギフチョウの卵）

（ウマノアシガタ）

（観察の様子）

活動のふりかえり

（2015. 4. 11）春の生き物とデート

カタクリやスミレ、イカリソウなどが迎えてくれました。キノコの植菌には小さな子も大活躍！！！

（2015. 4. 26）新緑の里山ハイキング

ハイキングの後、焼五平餅で腹ごしらえ。
味噌の味が好評でした。
（ハイキングの方は、加納さんの記事をご覧ください。）

（2015. 5. 10）愛鳥週間バードウォッチング

何かを真剣に観察しています。この日には 26 種類の野鳥を観察することができました。

（2015. 6. 27）竹細工とヘイケボタル観賞

あいにくの雨模様。今年のヘイケボタルのピークは、行事の 4～5 日前だったようです。

（2015. 6. 28）いがりまさし写真教室

いがりさんの指導で撮影に取り組む参加者。
（接写にはコンパクトカメラが便利だそうです。）
この後昼食をはさんで参加者が撮影した写真の講評や、いがりさんのギター演奏に合わせてスライドショーがあり、楽しいひと時でした。

豆知識　　花の咲かない不思議な花

（スミレの開放花）

春、綺麗な花を咲かせていたスミレたちも、夏になると、その存在さえ忘れ去られているようです。そのスミレたちはどうしているのでしょうか。今、スミレの株にはたくさんの実がついています。これは花の咲かない花が結実しているのです。この花の咲かない花は（閉鎖花）と言って、スミレの仲間は花が終わった後、夏から秋にかけて、たくさんの閉鎖花を付けます。

多くの植物は、自分以外の花から昆虫や鳥に花粉を運んでもらって受粉し（他花受粉という）、種子を作ろうとしています。この花の咲く花を（開放花）と言い、昆虫や鳥に来てもらうため、花を咲かせ、蜜を作るのに、たくさんのエネルギーを使います。このたくさんのエネルギー使った開放花による他花受粉のメリットは、(遺伝的多様性)が保てることです。このことは種の存続にとって重要なことです。

それでは、閉鎖花にはどんなメリット・デメリットがあるのでしょうか。閉鎖化は自分の花粉で受粉し（自花受粉という）確実に種子ができるので、花を咲かせ、蜜を作るためにエネルギーを必要としません。しかし、これは自分と同じクローンを作ることになるので、遺伝的多様性は失われていきます。

すみれの仲間は開放花による遺伝的多様性を維持しながら、閉鎖花によって確実に自分の子孫を残すというしたたかな戦略をとっているのです。身近な植物で閉鎖化を付けるものにホトケノザ、センボンヤリ、ミゾソバなどがあります。

スミレの仲間の閉鎖花　蕾が花を咲かせず大きくなって、実となります。

（スミレ）

（スミレ）

（オオタチツボスミレ）

ホトケノザは開放花と閉鎖花を一緒に付けます。

赤く丸い閉鎖花
蕾のような閉鎖花が
たくさん付いている

（ホトケノザ）

（上）センボンヤリの開放花は低い位置で咲きます。
（下）閉鎖花は長く伸びて、まさに槍のような姿になります。

この部分が長く伸びる

（センボンヤリ）

ねいの里　ホオホオニュース

季節の歩み

今年から里山の季節の移り変わりを、定点撮影をして記録しています。4 月から 5 月にかけての移り変わりです。冬枯れの状態から一気に若葉が萌え出て、鮮やかな新緑になります。

（4 月 9 日）

（4 月 25 日）

（5 月 14 日）

自然の生命力には驚かされますね。

ねいの里行事案内　（ねいの里ホームページで活動紹介しています。）

○　8 月　8 日（土）　「夜の昆虫大探検 PART Ⅰ」（夏休みの宿題支援）　集合場所：ねいの里
　　午後の部　13：00 ～ 16：00　トンボの調査と標本作り（定員 20 組）
　　夜 の部　17：00 ～ 20：00　夜の昆虫観察

○　9 月 12 日（土）　「夜の昆虫大探検 PART Ⅱ」　集合場所：ねいの里
　　17：00 ～ 20：00　夜に鳴く虫の観察

○　10 月　4 日（日）　「キノコ狩りとキノコ鍋を楽しむ」　集合場所：ねいの里
　　10：00 ～ 12：00　園内でのキノコ採集・鑑定とキノコ鍋の試食
　　キノコ鍋の試食は（定員 300 人）

〈参加希望者はねいの里までお申し込み下さい。〉

■　企画展

7 月　1 日 ～　8 月　3 日　自然保護協会環境写真展
7 月 15 日 ～　8 月 17 日　県内のカブト・クワガタ展
8 月 19 日 ～　9 月 23 日　キリギリスのお宿
9 月　2 日 ～ 11 月 24 日　ねいの里キノコ写真展

■　お願い　■

○　「ふくろう通信作成への協力のお願い」
日頃思っていること、人に話したいことを「ふくろう通信」に載せてみませんか。
皆さんからの投稿をお待ちしています。

○　会員の駐車場利用について
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラリスト駐車場を利用来ます。

発行　富山県自然博物園ねいの里　館長　富永　宣宏
〒939－2632　富山県富山市婦中町吉住 1－1
Tel 076-469-5252 ／メールアドレス　shizen@toyamap.or.jp
ホームページ　http://www.toyamap.or.jp/shizen/